

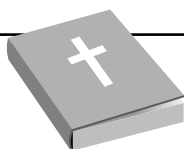


一粒の麦

ひとつぶのむぎ



召天者記念会・イースター



聖書のことば

あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り、
救いの歓声で、私を取り囲まれます。

(聖書 詩篇32編7節)

『通じ合える喜び』

生活支援課長 林 裕 一

梅雨のうっとうしい時期でした。当時、中学1年生だった息子が、「シンガポールに行きたい」と言ってきました。中学校で配布されたホームステイの案内文書が息子の目に留まったようでした。心配はあったのですが、息子の「行きたい、行きたい、行きたい」という思いに負け、シンガポールに送り出しました。「疲れた～」と帰ってくる姿を想像していたのですが、目はキラキラ輝いていて「船が乗ってるホテル見たっやが。(当時CMで話題になったホテル)」「チキンライスで美味しかった。」「家の人がいい人で、色々連れて行ってくれた。」等々、スーツケースからお土産を出しながら、シンガポールでの楽しかった思い出を話している息子を見て「もしかしたら、今度はうちがシンガポールの中学生を受け入れ？」と脳裏を横切りました。

受け入れの事など忘れていたある日、家に封書が届きました。封を切ると『ホームステイ受け入れのお願い』と書かれた文書が、すぐに家族会議を開催。2人の息子はもちろん「受け入れ推進派」。一方、私と妻は「ん～」と頭を抱えてしまいました。しかし、「息子もシンガポールでお世話になったし、受け入れんといかんね。」と受け入れることにしました。説明会が行われ、「出来るだけ日本の文化に触れさせ、食事も特別な物にしないでください。」と話があり、配られたプロフィールに目を通すとアレルギーの欄、英語で書かれていましたが、牛・豚禁止はすぐに分かりました。「牛、豚がダメなら鶏肉で、から揚げ、やっぱりチキン南蛮かな。」と考えながら家に帰り、残りのアレルギーを見てみると「bean(ビーン)」の単語、「えっ！ 豆アレルギー。豆がダメとなると、大豆もダメ、しょう油が調味料として使えない」さあ問題発生です。しょう油に変わる調味料を調べ、アレルギー食品の専門店を回り、魚醤ならいけるかなと準備を進めました。12月の日本、冬のない国から来る中学生に寒い思いをさせてはいけないと寝具をそろえ、衣類の事も考え、シャワーの説明をどのようにするか、合っているかも分からない英単語でシミュレーション。言葉が通じないと淋しいだろうと、携帯電話を翻訳機能のあるスマートフォンに変え受け入れの準備が整いました。

受け入れの日、彼の姿を探すと式典で用意されていた餅に、たっぷりのしょう油をつけて食べていたのです。うれしい誤算でした。初日は、緊張からか静かな夜になりました。次の日は、自転車で散策したり、ジョイフルで食事をしたり、川で遊んだり、計画通りに事は進みました。3日目は、他の家族と一緒に鶴戸神宮とイオンモール宮崎に出かけ

ました。ここで問題発生、彼が強張った表情で急に何か言い出したのです。話しを聞くと、ホームステイのコーディネーターと連絡を取りたがっていることがなんとなく分かりました。どのようにすれば連絡が取れるか、皆で考え、皆の持っている情報をフルに活用して解決することが出来ました。イオンモールでもちょっとした問題が、「ノー マネー」と彼が言ってきたのです。「お金が無い。もしかして盗られた」と話しを聞いていると「チェンジ」と耳に入ってきました。日本のお金が無くなったので、両替がしたいという事だったのです。しかし、その日は日曜日。両替できる機関は閉まっています。「どうしても買いたいものがある」と訴えてきました。考えて、私が両替をすることとしました。チェンジした日本円で買った物は弟さん達へのクリスマスプレゼントでした。

後日、「息子は大変喜んでいました。林ファミリーに感謝です。」とご両親が言っていたらしいよと風の噂で聞き、思わず「やったー」とガッツポーズをしてしまいました。それから一週間程経ち、物足りなさを感じながら綾南川の堤防を散歩していました。ふと三日間の出来事を振り返ると「これって、私のしている仕事と一緒だよ」と気づいたのです。資料やプロフィールから情報を集め、その人を知ることから始まり、集めた情報を整理し、「豆アレルギーがある」「しょう油が使えない」という課題を抽出する。その課題に対して「しょう油に変わるものはないか?」「魚醤ならいけるか」という対策(計画)あげると同時に考えられる事項に対してシミュレーションする。「しょう油は大丈夫」という新たな情報、それに伴い「しょう油を使った美味しいチキン南蛮を食べてもらう」「しょう油が大丈夫なので回転寿司に行く」と対策(計画)変更、新たな計画を付け加える。本人からの訴えに向き合い、皆で知恵を出し合い解決するグループでの取り組み。日曜日だからと即座に否定するのではなく、別の解決方法を探り出す、転換力、発想力。すべてが当てはまったのです。

二〇数年福祉の仕事に携わっていますが、私自身が障害を大きくしていたのではないかと考えるようになりました。ホームステイ受け入れに関しても、言葉が違うから無理、生活スタイルが違うから無理など自分から障害を作っていたのかもしれない。障害は意識するから生まれるものであって、真摯に向き合い、色々な手段を取り入れることで、通じ合えることができる。この体験を通して、通じ合う喜びを知り、達成する喜びを知り、仕事に向き合う姿勢を正してくれたような気がします。

召天者記念会 イースター



歌の贈り物



楽しかった思い出を…

生活支援員 山崎 美智子

「今年も会えたね」…亡き友との思い出を馳せる瞬間。4月18日、召天者記念会・イースターが行われました。エデンの園で共に生活された多くの仲間達が天へと旅立たれ、その度に残された者は辛く悲しい思いに打ち拉がれてきました。思い出して悲しみに暮れることもあったと思います。しかし、この日ばかりは、飾られた遺影を目の前にした皆さんの顔は、悲しみよりも同じ時を共にしていたあの頃に戻ったかのように、どこか安らぎに満ちた表情を浮かべておられました。召天者記念会は粛々と厳かに執り行われる雰囲気の中で「懐かしいね。」「○○ちゃんや」「○○くんや。」と久しぶりの再会を喜ばれていた一時でした。

キャタピラーゲーム



仲良く運んで



Let'sダンス



SPORTS スポーツレクリエーション

生活支援員 岡本 知香

第1種目 『仲良く運ぼう!!』という種目名で、活動班対抗でバスタオルを2人1組で持ち、風船をゴールまで運ぶ競技を行っていただきました。扇風機の風が障害になり、何度も風船を落としながらも、皆さん一生懸命ゴールまで風船を運ばれていました。

第2種目 『玉入れポン!』活動班対抗でカゴに新聞紙のボールを入れる競技を行っていただきました。今年度もカゴに沢山のボールを入れられ、最後にボールを全利用者でひとつひとつ声を出して、数を数え多い班は万歳をされ喜びを表に出されてました。

第3種目 『キャタピラーゲーム』

初の種目として、ダンボールの中に人が入り、前に前進していくゲームを行いました。皆さん初めてだったこともあり、ハイハイで進むところをダンボールの中に入って寝てしまう方・転がる方・と色々な姿が見られましたが、職員が進み方を教えながら、笑いあいの楽しいゲームとなりました。新たな競技を取り入れることで、積極性や、新たな可能性を発見できました!!

また、毎年恒例の新任職員の出し物では、新任が当日までに沢山練習をして、楽しい出し物を実施してくれました。髭ダンスからの登場で、皆さん拍手でお迎えし、アナと雪の女王のミュージカル風の踊り、炭坑節など色々な内容盛りだくさんで、拍手などして、リズムにのり、とても楽しんでおられました。

さあ!!最後は、お楽しみの食事です!!内容は、弁当でしたが、いなり寿司に巻き寿司・からあげなど・量も種類も沢山人っており、皆さん大満足でした!!

GW ゴールデンウィークの行事

生活支援員 渡部 強士

去る5月4日(月)～6日(水)に毎年恒例の行事、ゴールデンウィークを行いました。今年は、オリブ班の担当だったため、オリブ班職員皆で利用者の皆さんが楽しめるように知恵を出し合いました。その中で、皆さんに楽しんでいただけるのは、外部の方とのふれあい、音楽、食べること、温泉ではないかという意見が出てきました。そのため、今年度は4日が『井上ファミリーバンドコンサート』、5日がコーヒーを飲みながらケーキを食べる『スイート・ティータイム』、6日が大スクリーンを使った『お楽しみ映画会』を行い、毎日の入浴では大浴槽に温泉の素を入れ温泉気分を味わっていただきました。



『井上ファミリーバンド』1年ぶりの来園ということもあり、皆さん演奏を楽しまれました。また、コンサートの後には、バンドの方々とコミュニケーションをとられ、こちらも楽しまれました。『スイート・ティータイム』では、国富町のケーキ店『秋月』からケーキを届けてもらい、紙芝居を見ながらコーヒーと共に食べていただきました。皆さん美味しそうに食べておられました。『お楽しみ映画会』では、昔懐かしのドリフターズによる『8時だよ、全員集合』を上映しました。あちらこちらから笑い声が聞こえ、中には大爆笑の方もいらっしゃいました。

ゴールデンウィークの行事後に、皆さんに感想を聞いてみたところ、皆さん「楽しかった。」と笑顔で言われていました。普段の活動とは違う日課を行うことで皆さんリフレッシュできたのではないかと思います。

SHOPPING お買い物

生活支援員 岡本 知香



「さあ～出発で～す!!」

待ちにまったグレープA班の体験デイが始まりました。行き先は皆さんの大好きなイオンショッピングモールでした。事前にそれぞれ購入したい物を点字で打っていただき、当日、作成した点字リストを持参し、買物に望みました。

1時間半ゆっくりとそれぞれ購入したい物をひとつひとつ手で触り、確認しながら、慎重に購入しました。買物の後は、皆さんの得意とするカラオケでした。

カラオケでは、今流行りの“仕分け”という番組で使われている採点方法でカラオケを楽しみました。皆さん採点があると知ると一段と燃え始め、「90点以上をだすぞ～」という意欲的な様子も窺えました。なんと最高得点は、98点でした!!カラオケ屋さんの食事も初めてで、ゆっくり2時間カラオケを楽しむことができました。

帰りの車内では、「また行きたいね!」という声も聞け、とても満足した時間を過ごせました!!

パパイヤ班体験デイ in こどもの国フラワーフェスタ

生活支援員 蛭原 翼



今年度初めてのパパイヤ班の体験デイは、パパイヤ班全員参加で、5月に青島こどもの国のフラワーフェスタに行きました。今年度が始まり、「体験デイは～?」と度々、利用者の方から声が聞かれ、利用者の皆さんが首を長～くして待っていた体験デイ。活動時に事前説明をした際にも「どこ行くと?」「買物は?」と大変楽しみにされていました。体験デイ当日は健康チェックを済ませるとそれぞれ、おしゃれな外出着に着替え、出発しています。こどもの国に到着してからは早速、園内を散策し、バラ園や数百種類ある様々な綺麗に咲いた花を觀賞したり、写真撮影を行ったり、ふれあい動物広場ではアルパカを見

たりと楽しんでいます。散策後は、皆さんお待ちかねの昼食で、隣にあるパームビーチホテル内の中華料理「龍王」にて海鮮ちゃんぽん、エビマヨ、香味唐揚げ、チンジャオロース等々、豊富なメニューの中からそれぞれ自分で選択していただいています。食後はこどもの国へもどり、機関車の乗り物に乗ったり、デザートで夏先取りのかき氷やソフトクリームを食べています。帰りの車内では少しお疲れ気味の様子でしたが、終日皆さん表情良く過ごされ、楽しい体験デイになったのではないかと思います。

新 任 職 員 紹 介



いおりざき こずえ
生活支援員 庵崎 梢

去年の夏に宮崎学園短期大学生として実習に来させていただいたのがきっかけで、エデンの園でぜひ働きたいと強く思い、入職しました。まだまだ未熟ではありますが、笑顔、気付き、丁寧さを日々心がけ、利用者、ご家族の方々にとって安心感のあり、初心を忘れず常に利用者の気持ちに寄り添いながら支援できる支援員となれるよう精進してまいります。何卒宜しくお願い致します。



やました かれん
生活支援員 山下 佳恋

エデンの園に入職して2ヶ月が過ぎました。自分は、入職前不安や緊張がありました。同期や先輩職員の方に支えられ、今頑張っています。エデンの園で働く上で自分が目標としている事は、笑顔で接するという事です。自分が笑顔でなければ利用者の方も笑顔・明るくなって下さらないと思っています。これから、技術や知識・経験をより多く積みよりよい支援が出来るよう励んでいきたいと思ひます。



ほり つばさ
生活支援員 保利 翼

私がエデンの園で勤めていく上で、目標としている事があります。それは、誰に対しても大きな声で挨拶をし、一つひとつの行動に責任を持ち、積極的に何事にも取り組む事です。これからも常に笑顔で利用者方と接し、利用者方が幸せな生活を送れるような環境づくりを目指しながら、日々支援にあたっていきたくと思ひます。宜しくお願いします。



かわそえ ひろふみ
生活支援員 川添 博文

私は、生活支援員として利用者のみならず、家族や環境のことも考え、寄り添い支えていけるように仕事に努めたいと思っております。また将来的には、利用者支援および地域コミュニティケアをも行える専門職になれるよう努力したいと思っております。何卒宜しくお願い致します。



うみの せいこ
事務員 海野 聖子

こんにちは。総務課で4月より勤務させていただいております海野聖子と申します。
2年振りで懐かしく利用者様、ご父兄の皆様方より優しい声をかけて頂き嬉しい気持ちです。
利用者様の気持ちに寄り添えるように元気に笑顔で仕事に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

生活支援員兼理学療法士

さがりふじ まり
下り藤 眞里



思い起こせば30年前のこと。高校生活と一緒にバスケットで汗を流した柚木崎範子さんが「エデンの園」で働いていると聞きつけて外からですが眺めた覚えがあります。そのことをすっかり忘れて理学療法士となったわたしが12年ほど前に再び「エデンの園」にお邪魔するとは。不思議なめぐり合わせです。自分の仕事は日々の暮らしの中で安心して生活出来ることのお手伝いと思っています。



やまぐち みさき
生活支援員 山口 美咲

昨年の実習にて、利用者の方々とお交流させていただいたことがきっかけで、エデンの園へ入職することを決意しました。利用者の方々の表情や一挙一動の変化に気付く力、安心して生活していただけるための支援員としての能力など至らないところが多々ありますので、少しずつ丁寧に確実に身につけていきたいと思ひます。よろしくお祈り致します。



おがた けいし
生活支援員 緒方 敬士

私はエデンの園での目標があります。それは人を大切に思いやり、辛いことがあっても笑顔で乗り切ることです。多くの専門的知識や人生の中で積み重ねてきた経験も必要ですが私にとっては、人前で話す力や信頼関係を築くといった人と人との関わりが、これから大切になってきます。今まで頑張ってきた足跡を糧にして、次のステージにチャレンジできるよう、新しい風を吹かせていきたいと思ひます。



ほしざき ゆうせい
生活支援員 星崎 悠成

入職して約二ヶ月ですが、利用者への支援をさせていただく中で、多くの学びを頂いています。これからの目標として一人ひとりの利用者に向けた支援を試行錯誤しながら毎日の生活に意味があるものにして行きたいと思ひます。宜しくお願いします。



くぼた まさこ
事務員 窪田 眞佐子

4月から総務でお世話になっております。現在まで事務職に携わって来ましたが、施設での勤務は初めてになります。皆さん、大きな声で笑顔で挨拶をして下さるので、日々楽しく勤務させて頂いております。不慣れな点も多々あるのでご迷惑をおかけする事もあるかもしれませんが、宜しくお願い致します。

ふれあいだより



わくわく市(イオンモール宮崎)での販売を終えて

「一人ひとりの持ち味」

エデンの園 ふれあい 生活支援員 川辺 宣敬

5月20日(水)～23日(土)の4日間、イオンモール宮崎にて「わくわく市」が開催されました。今回の販売は、エデンの園とエデンの園ふれあいと協力して作品を準備して参加しました。販売が決まり、当日を迎えるまでそれぞれの持ち場で準備を進めてきました。

4日間は、朝9:00～19:00まで(最終日のみ18:00まで)と長い時間販売できた為、利用者みなさんが心を込めて作られた作品が、たくさんのお客様の目と手に触れることになりました。

中には、初日に来られた方が2日目にも来られ「昨日も来たけど可愛かったから、また来ちゃった!」という方や2日目は、他の方を連れて、その方にお勧めして下さったり、作品のアイデアをいただいたりと、作品を通して色々な話しも出来ました。

販売を通していく中で、他の事業所の方との連帯感も自然に生まれ、自分の事業所だけではなく、近くの店舗の紹介をし合ったりと全体(わくわく市)で支え合いながら実施出来ました。

4日間は、利用者の方も各日一名ずつ販売に参加され、「いらっしゃいませ!」と笑顔で接客されていました。自分たちが作った作品が並べられ他者に評価されるという喜びを肌で感じられていたようでした。

最後に準備期間から販売を終えるまでに一つの目標に向かって進んできたからこそ生まれた連帯感と充実感。販売期間中少ない体制の中、通常業務をされた支援員の方々、一人ひとりの力と想いが良い結果に繋がったと痛感しています。

寄贈品寄付金ありがとうございます。

(敬称を略させていただきます H27.4月～6月)

宮崎清水町教会・吉間光子・竹井義信・海野五雄、(株)ビューフィールド、井上ファミリーバンド、佐伯雄三、宮王丸郵便局、中内峯子、崇稱寺仏教婦人会、都城点訳・音訳友の会、宮崎清水町教会有志・長友和子、吉田亮、田中真弓、飯干誠夫



ボランティア

(敬称を略させていただきます)

落合理恵子、片地フサ子、佐藤カズ子、竹井静子、村木佐知恵、甲斐節子、甲崎圭一、宮崎北聖書キリスト教会サフラン会(11名)

主曜学校メッセージ

印 慶子牧師 (宮崎柳丸キリスト教会)	海老原直宏牧師 (宮崎北聖書キリスト教会)
原田彰久牧師 (宮崎清水町教会)	金 垣基牧師 (宮崎めぐみ聖書教会)
荒平大輔牧師 (川南せせらぎ教会)	



新年度がスタートし忙しい時間の流れの中ですが利用者の方も職員もワクワク、ドキドキな日々を送っている様子が窺えています。これから真夏がやってきます。心身共にダウンしないよう今から備えていきたいところです。 宮本 由美子